

ゴミ処理対策の強化を

小中学校へのエアコン 設置十分な議論を

復旧・復興を迅速に
進めるために



藤元 雅文 議員

【質】 藤元議員

分別再資源化を徹底し、2020年までにゴミをゼロにしようという自治体がある一方、牟岐町は、一日一人当たり1kg以上ゴミを出している県下で数少ない自治体であり、リサイクル率は最下位(26年度)である。どう改善するのか。

昨年12月議会での「他町での建設を求める決議」の採択。町長の方針転換表明を受け、海部衛生処理組合協議会において「ゼロペー」から「スタート」ということになったが、その後の進捗状況は。

【答】 福井町長

平成11年以降、紙とプラスチック類の分類をしなくなったことが原因だと考えている。組合議会等で提案し、分別収集に取り組みたい。

次期建設地については、副町長レベルで協議、検討しているが、現在のところ進展はない。

【質】 藤元議員

子どもたちの教育環境が改善されることは好ましいことだと考えるが、新聞紙上でも賛否両論の声があり、設置にあたっては十分な議論と合意を得る場が必要ではないか。設置の根拠を明らかにすべきだ。

人間は汗をかき体温調節しているが、



ゴミの分別収集

幼い頃のエアコンの使用で体温調節がうまくできない子どもが増えていると言われている。実際に汗を出す能力は3歳までなので、汗をかかせる

ことも必要である。保育園でのエアコン管理はどのようにしているのか。

【答】 峯野教育長

暑さのため、学習に支障が出てきているし、給食の残食量が多いという現状もあり、空調設備の設置は必要だと考えている。

【答】 久米教育次長

設備は有効に活用しながらも、暑さや寒さに負けない体づくりや健康教育面での実践を学校側にもお願いしている。

【答】 大柳戸保育園長

活動に応じて設置温度や利用時間を変え子どもたちの体に必要以上の負担がかからないようエアコンをうまく利用するよう心がけ保育している。

【質】 藤元議員

我々が直面しているのは、東日本大震災より桁違いに大きな被害が想定される災害であり、災害後、一定期間、自助・共助で乗りきらなければならぬ。何をすることも道路の確保が大切で、そのためには重機の燃料確保が重要な課題になる。また、早期の罹災証明書の発行がなされなければ災害後の復旧・復興が進まない。

その後の取り組み状況は。

【答】 福井町長

現段階では応援要請による対応になると考えるが、県とも相談したい。研修を受けた「住宅被害認定調査員」が3名在籍しているが、今後、計画的に増やしていく。

一 般

質 問

問